

詰連珠ドリル

【初級編①】

サンプル

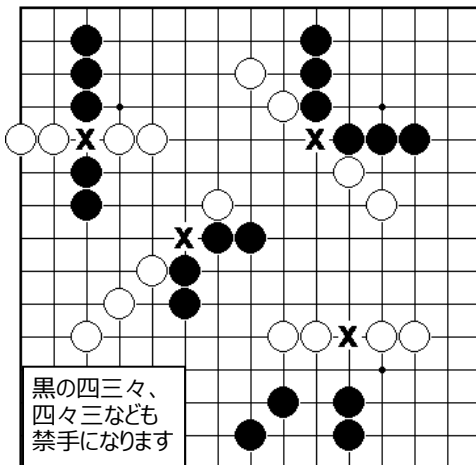
出題：河村典彦九段

2023年11月1日発行

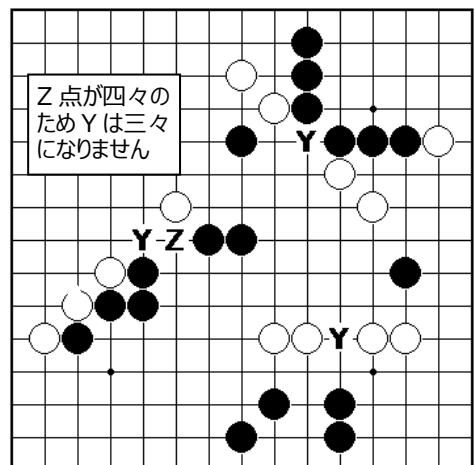
【連珠のルール】

- 連珠盤（15×15）を使います
- 黒石と白石を使います
- 黒が先手、白が後手で交互に打ちます
- 黒は最初に中央の「天元」に打ちます
- 縦、横、斜めのいずれかに早く「五連」を並べた方が勝ちです
- 黒にのみ、三々、四々、長連の禁手があります
白は黒に禁手を打たせても勝ちです

【禁手の例】



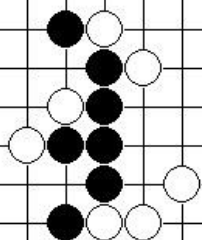
【禁手にならない例】



詰連珠ドリル、入門編に続き初級編を作成しました。入門編と比べると読む長さがちょっと長くなります。基本的には三・四三で勝つ問題となっており、いわゆる「三手の読み」が必要となってきます。この問題がスラスラ解けるようになってきたら、基本的な勝ち方がわかるようになり、実戦で勝てるようになってきます。ノリ手や禁手を理解するのも役に立ちますので、繰り返し解いていただくことをお勧めします。

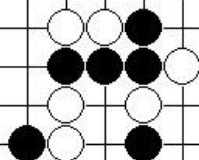
入門編と同じく黒先問題を 70 問、白先問題を 30 問合計 100 問をご用意しました。各問題にヒント、解答にはちょっとした解説をつけていますので、初心者の方もこれを読んで基本の勝ち方をマスターしてください。実戦では、四や三を見落とさない、勝ちがある時にしっかり勝つ、ということだけを注意すれば、級位がどんどん上がっていきます。では、詰連珠の世界、楽しんでください！

第 1 問【黒先】



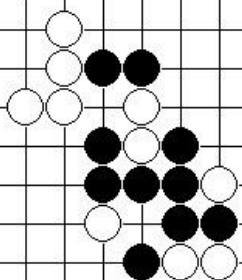
ノリ手に注意が必要です

第 2 問【黒先】



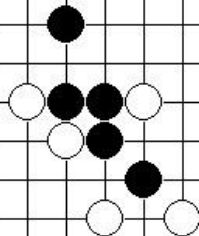
トビ三をうまく使います

第 3 問【黒先】



ノリ手に注意が必要です

第 4 問【黒先】



トビ三で攻めます

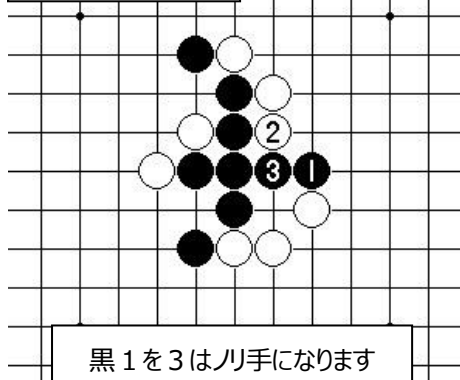
詰連珠を解くコツ

- ・四ができる場所に注目する
- ・ノリ手（止めた手が四や三になる手）や禁手に注意する
- ・トビ四、トビ三、斜めの筋は見づらいので特に意識して見る
- ・わかったと思っても、頭の中で再度確認する

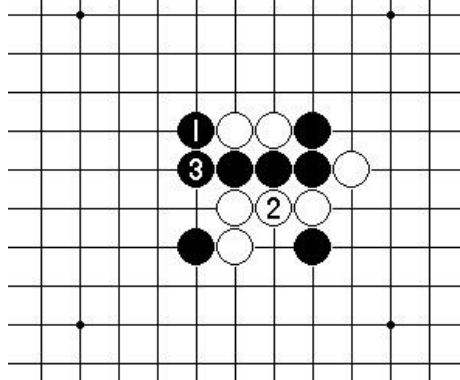
この入門編は簡単に勝てる問題ばかりなので見た瞬間わかる場合も多いですが、即断してしまうとノリ手を見落としやすいです。斜めのノリ手などは非常に見えにくくなっていますので、要注意です。間違えた問題を再度やってみるのも上達のコツです。

● 解答

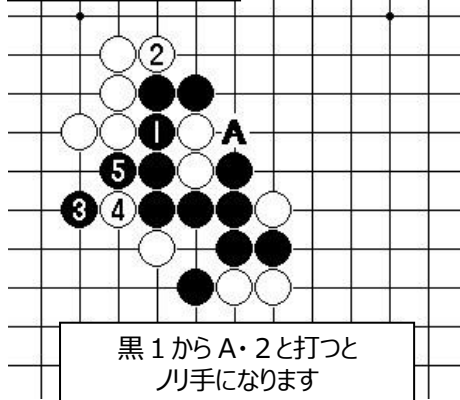
第 1 問【黒先】



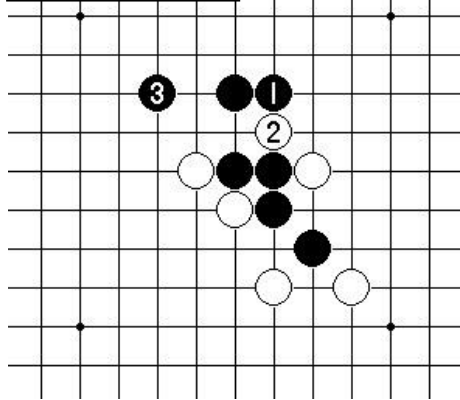
第 2 問【黒先】



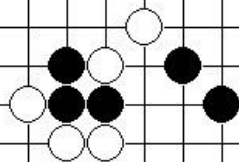
第 3 問【黒先】



第 4 問【黒先】

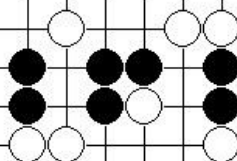


第 5 問【黒先】



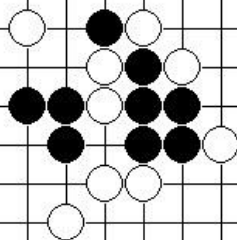
大きく飛び出します

第 6 問【黒先】



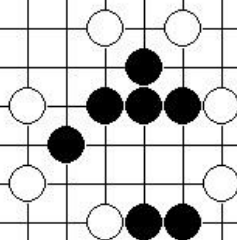
長連筋の四を見極めます

第 7 問【黒先】



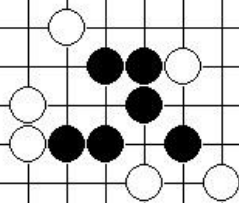
四迫いで四三にします

第 8 問【黒先】



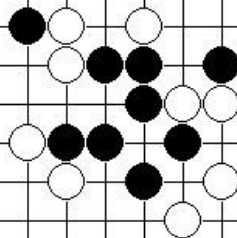
見えにくいノリ手に注意

第 9 問【黒先】



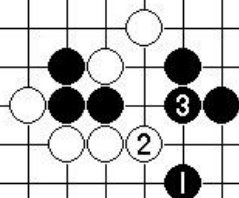
三々を打たないように

第 10 問【黒先】

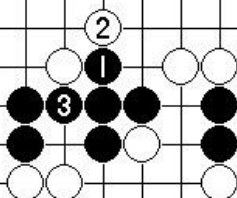


三々や四々を打たないように

第5問【黒先】

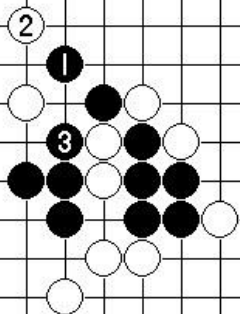


第6問【黒先】

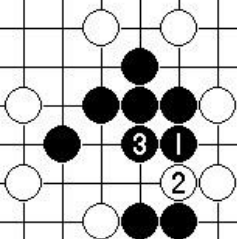


黒1で2はノリ手です

第7問【黒先】

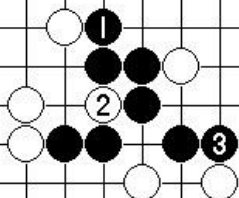


第8問【黒先】



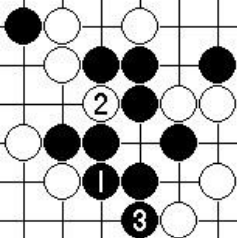
黒1を2はノリ手になります

第9問【黒先】



黒1を2は三々で打てません

第10問【黒先】



黒1を2は三々で打てません